



【祈る者の特権と祝福・頌栄】

聖書の本文：マタイの福音書6章9-13節・歴代誌第一29章10-14節

説教者：鄭南哲牧師
(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！みなさんとお会い出来て心から嬉しくて感謝致します。工事の為、先週はオンラインでお会いすることが出来ず、平日の早天祈り会や水曜夜祈り会もお休みでなかなか会えなかったの、とても久しぶりの感じがしますね。まだ今週火曜日と水曜日で、完全に壁紙張替の工事が終わる予定なので少々お待ちください。本日このように教会で一緒に礼拝を捧げることが許され主に心から感謝いたします。またまだ昼間は厳しい残暑が残っていますが、少しずつ、朝晩の空気が涼しくなって来ました。始まった9月中にもみなさんの心と体がキリスト・イエスにあって守られ、主の平安で益々豊かに満たされますようにお祈り申し上げます。

<1. 主の祈りを通して学んだ祈りの祝福と大切さ>

イエスキリストが愛する弟子たちに祈りについて教えて下さった時、あなたがたは祈る時、こう祈りなさいと教えて下さったのが主の祈りでした！イエス様は、祈りはあれこれ色々な方法論や知識ではなく、実際祈ることによって、体験出来る神の祝福と特権をこの主の祈りを通して教えて下さいました！なので、今日も皆さんが実際祈らない限り、具体的な祈る者への神の約束された豊かな祝福と力を体験することは出来ません。祈りの神の答え、恵みと力は実際祈る者のみが体験し、味わえることが出来る特権なのです。

そうするために、イエス様は、弟子たち、後のキリストを信じる全ての人々が早速いつでも、どんな時でも、だれでも祈れるように、お手本となれるとてもシンプルで、すぐ従って祈れる短いこの主の祈りを教えて下さったのです。ですから、我らも子どもたちにも主の祈りを覚え、個人的に、家族で、牧場で、アワナで、この主の祈りを用いて、いつもこう祈れるようにこれからも大切に勧めて頂きたいと願っております。

神の前で少なくとも成功した幸いな親って言えば、子どもたちに、神の御言葉に親しんで、御言葉を愛することが出来るように、神の御言葉をよく聞かせ、共に読ませるようにすることにより、一生神の御言葉から離れないようにすることと、どんな時でも、いつでも神様に祈る者となるように教え、その祈る模範を見せながら、共に祈ることを続けることによって、子どもたちがどんな時にも実際祈ることにより、生きておられ、共におられる神の御力と恵みを頂けるように、一生祈ることを先にし、優先にしながら、祈る生活から離れないようにさせる親であることを、今日まで主の祈りのシリーズのメッセージを通して教えられて来たと思えます。

本日でいよいよ主の祈りの最後です。今まで主の祈りのメッセージを通して、だれでも、どんな時でも容易くすぐ祈れるようなこの主の祈りでしたが、この主の祈りの内容にはどれほど、深い神の奥義と祝福が含まれているのか、実際この祈り通りに本当に日々祈れば、祈る者のみにどんな特権と祝福が約束されているのか十分に教えられました！今日が主の祈りに基づいた祈る者への特権とその祝福について最後のメッセージとなります。祈りの手本となるこの主の祈りへの最後にもう一度確信をしっかり抱ける時間となり、みなさんの日々の生活の中、実際に活用し、実践しながら、神の恵みの豊かさを、より多く祈りの答えと恵みをできるきっかけとなりますように心からお祈り申し上げます。

聖書に“たえず祈りなさい(1テサロニケ5:16-18)”と神様が私たちに命じられた理由は私たちが日々祈りを通じて神様と交わりながら生きるべき存在であるからです。どんなに大量の作業ができる機械であってもエンジンが動かなければ、その機械はただの鉄にすぎないことと同じようにクリスチャンにとっても一緒です。我々から祈りを除いてしまうと信仰の正しい生活の機能も止まってしまいます。私達クリスチャンにとって祈りというのは、機械のエンジンのように私達の全領域に神の力を頂いて動かせるエネルギーであり、パワーなのです。

<(①神の御心が我らを通してすべて全うされる為・②試みに陥らないようにする為)>

ルカの福音書22章39節—46節を読んで見ますと、イエス様の前には残酷で耐え難い十字架の死という問題がございました。明日にはあの残酷な十字架にかかる事を知っておられました。近づいて来ている十字架、単なる死の苦しみだけではなく、耐えられなさそうなその十字架の苦しみの問題の前でイエス様は他の人たちを非難されませんでした。弟子たちさえも、彼を裏切ったあのユダさえも責めませんでした。それにイエス様は何の悩みもないふりをす

る演技もされませんでした。あの苦しみの十字架をイエス様は真っ直ぐに眺めました。その十字架という苦しみの問題をいただいたままゲッセマネの園でイエス様はひざまずいて祈ることによって問題を直面し、祈りをもって十字架を覆うようになり、祈りによってイエス様は全ての御心を成就された事を私たちも覚えなければならないでしょう。

そのゲッセマネの園で必死に祈られたイエス様の祈りの内容を一言でまとめると、「父よ。しかし、私の願いではなく、**みこころがなりますように。**」(ルカの福音書22章42節)ここで主は弟子たちに、そして我々に祈るべき理由(いのりを通して神の御心が全て成し遂げられるため)をもう一度教えて下さいました。

ここでわたしたちは祈りの大切さをもう一度見出すことができます“**祈りというのは神様の約束、ご計画を我々に成就させる通路(「御国が来ますように。みこころが天で行なわれるように、地でも行なわれますように」)**であるということです。”

神様は私とみなさんのためにすばらしいご計画をもっておられます。一人一人、家庭、共同体、教会、民族のためにすばらしい計画をもっておられるのにどうして神の御心全てがかなえられないのでしょうか。その簡単な理由は我々がそれを祈らないためだった事が分かります。**私たちが祈り始める時、神様の約束は成就されると信じます。祈りによって神様の祝福はどんどん広がると信じます。祈りというのは神の御心を我々に成す方法であることをわすれないでください。ですから、答えられる時まで、とことんまで祈り続けなければなりません。**

しかし、この世の中生かされているため、これから津波のような問題が弟子たちに襲って来るのをご存じであられた神の御子イエスキリストは共に祈りをもって準備し、ふさわしく対応し、対抗できるように教えて下さったのにも関わらず、

無関心、無感覚で目を覚まして祈り続けられず、よく眠ってしまった弟子たちになぜ祈るべきなのかこう語って下さいました。**ルカの福音書22章46節に「どうして眠っているのか。誘惑に陥らないように、起きて祈っていなさい。(祈るべき理由:誘惑に陥らないように「私たちを試みにあわせないで、悪からお救いください。）」**

でも、その時、3度も祈るように命じられた主の御声があっても、3度も眠ってしまい祈らなかった弟子たちの中一番熱心だった弟子**ペテロ**はサタンの誘惑に気づかないうちに、飲まれ、負けてしまいイエスキリストを3度も呪いながら知らない否認し、大きな過ちと失敗を招いてしまいました。しかし、後でイエス様から言われたお言葉を思い出し、心から悔い改め祈ったペテロは初代教会で祈りの人となり、初代教会中欠かせない存在として、大いに用いられたことが分かります。

ですから、なかなか祈り続けられない我らであっても、今日も祈るように命じられる主の御声を聞ける主が下さるチャンスと機会として真剣に受け止めなければなりません！

神様は使徒ペテロが一瞬勇断し、自慢していた自身の大きな失敗を通して、初代教会の人々や今日我らにまでこのように証しとして語らせ残させ、我らも油断しないように、こう注意し、警戒するように次の御言葉を我々に与えて下さいました。

新約聖書の中ペテロ自身は燃えさかる火のような試練を味わいました。彼は同じようにクリスチャンにも人生の中火のような試練はいつもありえるという事実を示してくれているのです。我々がそのような試みに陥らないような体制と勝利のために、人生の老年結論的にこう語っています。**ペテロの手紙第一4章7節に「万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え、身を慎みなさい。」、ペテロの手紙第一5章8節「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。」**

愛するクリスチャンプレイズの信仰の家族のみなさん！私たちはいつ火のような試練に会うかわかりません。しかし、今でも、いつでもこの試練を乗り越え、御心通りに全て益となるように準備はできているのでしょうか。

今年もサタンはかならずみなさんの弱さにほえたける獅子のように試みて来る事を忘れないで下さい。ですから、イエスさまは主の祈りを教えながら**「私たちを試みにあわせないで、悪からお救いください。」**と祈るようにおっしゃっています。苦しみや、試みの多いこの世で、自分や家族や教会ためにどれだけ祈っているのでしょうか。

この地上にいらっしゃったイエス様が祈りの姿は、習慣づけにして常に祈られていた姿でありました！必要な時だけ、適当にではなく、自身でやって見て最後にでもなく、いつも、先に、必死そのものです。

神であるイエスキリストなのに、その方はひざまずいて祈られました(41節)。当時ユダヤ人たちは立ててささげる祈りをしましたが、**本当に切迫の時だけ、ひざまずいて祈っていましたが、神の御子はいつもひざまずいて祈っておら**

れました！そしてルカの福音書22章44節をみると、イエス様の弟子だった医者出身のルカはイエス様の祈られている姿をこのように描写しました。「**イエスは苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。**」主の祈りの最後の時間、我々も祈る時は、以前よりさらに切実に祈り、祈りにより心から熱心に祈られるクリスチャンプレイズの全信仰の家族となりますように心からお願い申し上げます。

<2. 本文:主の祈りの最後の閉め(頌栄と栄光の告白と歌)意味>

まず、古代旧約時代から、新約時代に至るまでみなさんも、ご存じのように、まだ紙のようなものがなく、パピルスや羊皮紙(ようひし)を紙の変わりにしてその上に書き記されていました。当然コピー出来る時代でもなかったわけですから、いちいち多くの人に伝え、読ませるために、原本から筆写(ひっしや)したことが分かります。そのように、原本から別の羊皮紙などに写されたものを写本(しゃほん)だと呼ばれます。今日にももちろん、原本の聖書は存在していませんが、例え、新約聖書の本来の原本、その原文聖書から写(うつ)したギリシャ語の写本(しゃほん)だけでも5700種類以上が残されました。しかし、そんなに多くの写本があるのにも関わらず、**90%以上が一致している**ので、**本来の原文聖書内容を把握するにはまったく問題はありません。**

今日は主の祈りの最後の「**国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。アーメン**」という内容のところをともに学んで見たいと思います。残念ながら、この祈りの内容が以前の**新改訳3版**では括弧()つけられ、書かれていましたが、最新の**2017版の最新聖書**には省略されて書かれてないのです。もちろん、そこには理由があります。

「**国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。アーメン!**」

日本で一番最新の新改訳2017版新改訳聖書では、今日の祈りの内容が省略(NIV)されて、その前の新改訳3版で括弧につけられている(韓国語聖書でも同じ、KJVでは括弧なしで:For thine is the kingdom, and the power, and the glory, forever. Amenと書かれている)理由は、残されているマタイの福音書の写本の中、一番古くて権威ある写本(ギリシャ語聖書NA27、ルカの福音書11章2-4、シナイ写本、バチカン写本(B)、ベザ写本(D))の中には、今日のこの箇所が抜けていたからです!しかし、4-5世紀の写本(古代ラテン語写本、レギウス写本(L)、セントゴール写本)からこの内容が含まれていました。そして、「**国と力と栄え**」の中、モスコ写本(K)には「力」だけ記され、古代スリア写本には、「国と栄え」のみが記されてきました。

今日の13節箇所の以下の部分だけはイエス様が言われたのか、どうかははっきりしてはいませんが、結局まとめますと、イエス様が直接教えて下さった本来の原文にはありませんでしたが、初代教会の時に、加えられたと見ている見解(けんかい)として多くの聖書学者たちが同意し、理解しています。

初代教会では、神様に祈りを捧げた後、いつも**賛美と頌栄、栄光ソング**を歌ったことにより、付け加えられたと見ていますし、他の新約聖書の箇所でも、13節後半のような内容がたくさん表れています。

「**主は私を、どんな悪しきわざからも救い出し、無事、天にある御国に入れてくださいます。主に栄光が世々限りなくありますように。アーメン。(テモテ人への手紙第二4章18節)**」

この御言葉のように祈りを捧げてすぐ起き上がるのではなく、**我らの祈りを聞いて下さった父なる神の御名をほめたたえ、賛美し、すべてのものが神様のものである、すべてのもの主なるお方に永久に栄光を帰しながら閉じる祈りは何と美しい祈り**でしょうか。

原文にはなかったのですが、このように、我らに祈りを通して神様と見上げ、霊的に交わった後、父なる神様に、永久に栄光の賛美、頌栄をお捧げしようとした祈る姿も、聖書全体的に一致する神様が喜ばれる祈りの内容であり、祈る人の真の姿勢となるため、初代教会は我らに、括弧()につけながらも、残して下さった大切な信仰だと信じます。

そのような祈りの習慣がついていた使徒パウロの書いた聖書の箇所からも神様を賛美するところが頻繁に書き記されていることが見えます。このことを見ながら祈りというのは単純に私たちの求める祈りをした後すぐアーメンと閉じて起き上がるのではなく、その祈りを聞いて下さる神様の御名を賛美し、その方の栄光を帰ることがいかに正しい祈りなのかよく見せてくれます。ですから、今日私たちはこのような栄光の歌を主の祈りに付け加えて私たちに伝えて下さった初代教会の信仰の先輩たちに感謝をせざるをえません。

「① 頌栄の祈り」

そして、今日主の祈りの最後の部分は「国と力と栄えは、とこしえにあなたのもだからです！」

この部分を「主の祈りの頌栄」、もしくは「栄光のソング」だと言われているところです。

特に、ヨハネの黙示録には頌栄の内容が多く書かれています。「また、ご自分の父である神のために、私たちを王国とし、祭司としてくださった方に、栄光と力が世々限りなくあるように。アーメン。(ヨハネの黙示録(Revelation) 1章6節)」

「主よ。私たちの神よ。あなたは、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方。あなたは万物を創造されました。みこころのゆえに、それらは存在し、また創造されたのです。(ヨハネの黙示録(Revelation)4章11節)」

「(ヨハネの黙示録(Revelation)5章12-13節)12彼らは大声で言った。「ほふられた小羊は、力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい方です。13また私は、天と地と地の下と海にいるすべての造られたもの、それらの中にあるすべてのものがこう言うのを聞いた。「御座に着いておられる方と、小羊に、賛美と誉れと栄光と力が世々限りなくあるように。」」

「(ヨハネの黙示録(Revelation)19章1節)この後、私は、大群衆の大きな声のようなものが、天でこう言うのを聞いた。「ハレルヤ。救いと栄光と力は私たちの神のもの。」

「②すべてのものが神様！あなたのものです。」

愛するみなさん！あらゆる国のみならず、あらゆる権威も、力も、栄えも神様にあることを信じていますか。神のものである神の国と神の御力と神の栄光が現在自分の生活の中で、自分たちの家庭で、自分たちの職場でも来るようにと望む祈りでもあります。

歴代誌第一29章11節—12節によく祈られたダビデ王もそれを信じ、こう祈りました。

「主よ、偉大さ、力、輝き、栄光、尊厳(いげん)は、あなたのものです。天にあるものも地にあるものもすべて。主よ、王国もあなたのものです。あなたは、すべてのものの上に、かしらとしてあがめられるべき方です。12富と誉れは御前から出ます。あなたはすべてのものの支配しておられます。あなたの御手には勢いと力があり、あなたの御手によって、すべてのものが偉大にされ、力づけられるのです。」

ヨブ記1章21節では、「私は裸で母の胎から出て来た。また裸で私はかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」書かれているように我々が持っている命、時間、物質、健康すべてが自分の物ではなく、この世に生きているうちに神から預けられている物であり、かならずそれに対してこの世での時を終え、神の御前に立てられた時に、神からの物をどう使われたのか問われる事を聖書は教えて下さっています。

御力と権威を持っておられるイエスキリストご自身もがよみがえられた後、天に昇られる直前弟子たちを集め、与えられた言葉の中にこれがあります。「イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。(マタイの福音書28:18)」

ですから、今日も我々は全てを持っておられる全能なる神に祈り求める時こそ、必要な力、助け、満たしを、問題の解決と答えがあると信じます。「わたしを呼べ。そうすれば、わたしはあなたに答え、あなたの知らない理解を越えた大いなることを、あなたに告げよう。(エレミヤ書33:3)」

いま、みなさんの人生の焦点をどこに合わせられていますか。自分や、ほかの人々や物質、問題に焦点を合わせないで、神様に合わせて見ませんか。全能なる神に焦点を合わせ、神の助けを求める事が祈りそのものであります。

「③アーメンの4つの意味」

まず、みなさんがよくご存知のアーメンと言う言葉について一緒に考えて見ましょう。アーメンという言葉にはもともと4つの尊い意味が含まれています。

①第一は、アーメンは「確認と確信」を意味します。この言葉は真実を誓う時に使われました。

「主よ。その通りで確かです！その通り間違いはありません」という確認と確信の意味です。

②第二は、「祈願(きがん)」を意味します。

「神よ。そうなりますように”、”主よ。そのようになさって必ずそうなるようにして下さることを願います！”という願いとその通りになることを信じる信仰も含めています。

③第三は、「忠実と献身」を意味します。「主よ。我らもそう出来ますようにして下さい」、「かならずそうします。」と言う意味です。

④第四目のアーメン！という意味は「頌栄(神の栄光を賛美する、三位一体神に栄光を帰する)」です。

実は聖書では多く、アーメンをこの頌栄の意味で使われています。

詩篇106篇48節を見ると、「ほむべきかなイスラエルの神主。とこしえからとこしえまで。民はみな「アーメン」と言え。ハレルヤ。」ヨハネの黙示録3章14節で、使徒ヨハネはイエス様を「アーメンである方、確かで真実な証人、神による創造の源である方」だと紹介しました。アーメンである主。つまり、約束されたら、かならずかなえて下さるお方に先取りの感謝と賛美の意味であることを教えて下さっています。

素晴らしいイエスキリストの愛と救いを体験した使徒パウロはコリント教会の信徒たちにこのように書きました。

「神の約束はことごとく、この方において「はい」となりました。それで私たちは、この方によって「アーメン」と言い、神に栄光を帰するのです。」(コリント人への手紙第21章20節)

そういうわけですから、祈る時、救い主イエスキリストの御名を通して祈り、この祈りを通して主は神様の約束と御心通りに必ず全てを成就されることを信じ、アーメンで閉じるべきであります！そして、アーメンだと信仰を持って告白する時、すでに私たちを通して神様に栄光を帰する事になるため、もちろん軽くよく使ってははいけません、主が最善をなさる事を確信する信仰を持ってよくアーメン！を語るべきでしょう。

今日の箇所は私たちが神様に祈る時、いつも神様を賛美することによってアーメンと言えるようにと教えてくれます

これから日々愛するみなさんも心からこのような神様への賛美と信仰の告白が日々溢れますようにお祈り申し上げます。そして、その信仰を持って日々すべての栄も富みも力も祝福も神のものであることを我々の祈りの中で賛美し、告白することにより、その神様にある豊かさや栄えを体験し、味わえる我々となりますように祈り申し上げます。

<3. 結論:祈りは神の祝福の通路であり、特権であります！>

すべての国と力と栄えは神様から出ると同時に父なる神様に属されています。ですからどれも神のものではないことは一つありません。そういうわけですので、すべてをもって、すべてを与えて下さる権威と力をもっておられる神に祈ること自体が神を信じる私たちには大きな祝福であり、特権であるのです。

今日もみなさんの生活の中で具体的に必要なことは何ですか。そのため主が教えて下さった祈りに従って祈って見ませんか。日用の糧のために祈りましょう。赦し会える心と生活のため祈り、試みと悪から守られ勝利されるように祈りましょう。そして、最後にこのような祈りで告白しましょう。「すべての国と力と栄えが神にとこしえまでであることを信じます。主イエスキリストの御名によって祈ります。アーメン」だと。「人間はひざまずいて神様と顔をあわせる時こそ一番偉大になる。」と言ったイギリスのロイ・ドジョンズ先生の話をも覚えてください。

だれかが「神の御国は祈るひざによって前進される」と言いました。私たちが一日を祈りによって神様に繋がっており、支えられていくなれば、残りの私達の生涯はさらにキリストの力と栄光と平安に満ちあふれると信じます。神様を信じる人々は、自分の力で生きるものではなく、神様の力によって生きる者たちであります！

昔も、今も、これからも恵みと哀れみに満ちておられる父なる神様は、神を信じ、祈る全ての者たちに、ご自身に全ての栄華と富、御力と救いを惜しまずにお与えようとしておられるお方です。

「私は主を愛している。主は私の声、私の願いを聞いてくださる。2主が私に耳を傾けてくださるので、私は生きているかぎり主を呼び求める。(詩篇116:1-2)」(とことんまで祈りましょう！)

愛する教会信仰の家族のみなさんは最近祈りへの飢え渴きを覚えていませんか。祈る必要がまったくない方がいらっしやいますか。自分に祈る事が必要な時であるのを感じていますか。実は祈らなくても良い人生は神の前でだれもいません。だから主は常に祈りなさいと命じながら、このように祈るよう主の祈りを教えて下さったのではないのでしょうか。主が教えて下さった祈りを教わりながら、始まったこの9月我々もイエス様のように祈る者となり、祈る姿さえもイエスキリストに似ていくクリスチャンプレイズ教会の全信仰の家族となりますようにイエスキリストのお名前によって祝福し、お祈り申し上げます。みなさんを通して主の御名があがめられますように！神の国、御力、栄え、栄光がみなさんの人生に、ご家庭に、職場に、主の教会に豊かに与えられ注がれますように祝福をお祈り申し上げます。アーメン